通信教育部長に聞く

松重 充浩（まつしげ みつひろ）教授

内部の認知度を上げたい

――就任の抱負をお聞かせください。

三つのことを頑張りたいと考えています。一つは一連の不祥事で失った社会的信用の回復に努めること、二つ目は大学において通信教育部の認知度を上げること、三つ目は通信教育部の教職員の皆さんが自身の能力を発揮できる環境をつくっていくことです。

二つ目に関してですが、4学部の通信教育課程として存在しているほか、大学院総合社会情報研究科は理科学系関連科目も備えています。総合的研究・教育ができることを大学全体にご理解いただきたいと思います。

――学部との連携についてはいかがでしょう。

通信教育課程で学ぶ人がパンフレットや学祭の時に、通信教育課程のアピールのためにブースを設け、パンフレットを置くことも考えています。

――コロナ禍で状況が一変しました。今後の施策についてお聞かせください。

キャンパスを持つことや対面型スクーリングに魅力を感じていた学生や院生に、代替としてグレードの高いサービスを提供することに苦労しました。しかしそこで蓄積したさまざまな能力は大きな財産となっています。

コロナ後を見据えては、障害を持つ人などさまざまな人のニーズを満たす必要があります。通信教育は社会的弱者を抱え込む形でこれから大きく伸長する分野です。

この間蓄積した能力は競合する他大学との差別化の大きな強みになり、さらにその強みを生かすためにインターネット関連の機器や備品、ソフトの充実が重要です。同時に日々進歩するインターネット環境に対応できる職員の増強が喫緊の課題でしょう。

――通信教育課程の強みは何でしょうか。

長い伝統の中で一人一人に対する柔軟かつきめ細かな相談に対応できる点です。卒業後は通学制卒業生と同等の資格を持つ校友として交流できることも大きな魅力です。

都心のキャンパスで日大のネットワークを生かしたキャンパスライフが満喫できます。資格取得に向けてのサポートも充実しています。

――学生支援や就職支援について教えてください。

学生支援窓口と学生支援室の二つの受け皿があり、支援窓口では相談を受け、可能な限り丁寧に対応しています。

支援室にはカウンセラーの臨床心理士をお呼びしており、専門的な領域から対応しています。学生には「気楽に利用してください」と繰り返し周知しています。

奨学金は日本学生支援機構のほか、通信教育部独自のものや坂東奨学金などがあります。

――一連の不祥事で本法人のガバナンスが問われています。

「日本大学の行動規範」が大前提です。常に意識して順守することを徹底します。

また日本大学に勤めていることに強い誇りと責任を持たなければならないと思います。

学生からの意見を聴くために投書箱を作りました。情報を共有し、1～2カ月に1回は通信教育部長として回答などを発信していきます。

――最後に教職員にメッセージを。

法人全体の教職員に対しては、通信教育部の日々の営みを気にかけていただくようお願いします。ホームページもリニューアルする予定ですのでぜひご覧ください。

通信の教職員には、よりよい大学にするための意見を積極的に出してもらいたいと思います。

スタッフ
学務担当　雨宮 史卓 教授（広告論）
学生担当　鍋本 由徳 教授（日本近世史）

5年度一般選抜まとまる

生物資源科では新学科も

令和5年度の一般選抜の概要がまとまった。

主な変更点は、国際関係学部でA個別方式第三期、芸術、理工、工、薬学部、短期大学部2学科でN全学統一方式第二期を新規導入、理工学部でCA共通テスト併用方式、芸術学部でA個別方式第二期を廃止など。また、生物資源科学部では11学科からなる新学科体制への移行を予定しており、獣医保健看護学科などの募集が開始される。

入学課の池野公章課長は「今年度は一連の不祥事の影響もあり2年連続で前年度割れという厳しい結果だった。今後、各学部等で展開しているさまざまな学生支援を繰り返し発信し、受験生や保護者の方々の信頼回復に努めていく」としている。

〈令和5年度一般選抜期日一覧〉

○A個別方式（以下A方式）＝各学部等が独自に実施する試験。試験により学部本校舎以外で行う試験も含む
○N全学統一方式（以下N方式）＝同一試験日・同一問題で複数の学部（学科）を併願することができる試験
○C共通テスト利用方式（以下C方式）＝大学入学共通テストを利用した試験
○CA共通テスト併用方式（以下CA方式）＝大学入学共通テストと学部独自の試験を併用した試験

学部	学科	試験方式/試験日
法	法律（法曹コースを含む）/政治経済/新聞/経営法/公共政策/第二部（夜間部）法律	A方式第1期2月7日（火）
		A方式第2期2月19日（日）
		A方式第3期3月12日（日）※第二部のみ
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式
文理	哲/史/国文/中国語中国文化/英文/ドイツ文/社会/社会福祉/教育/体育/心理/地理	A方式第1期2月3日（金）
	地球科/数/情報科/物理/生命科/化	A方式第1期2月4日（土）
	哲/史/国文/中国語中国文化/英文/ドイツ文/社会/社会福祉/教育/体育/心理/地理/地球科/数/情報科/物理/生命科/化	A方式第2期2月28日（火）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
	哲/英文/数/物理/生命科	C方式第2期
経済	経済（国際コースを含む）/産業経営/金融公共経済	A方式第1期2月3日（金）
		A方式第2期2月13日（月）
		N方式第1期2月1日（水）
	経済（国際コースを除く）/産業経営/金融公共経済	N方式第2期3月4日（土）
	経済（国際コースを含む）/産業経営/金融公共経済	C方式第1期
	経済（国際コースを除く）/産業経営/金融公共経済	C方式第2期
商	商業/経営/会計	A方式第1期2月5日（日）
		A方式第2期2月20日（月）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
		C方式第2期
芸術	写真/美術/音楽/演劇/放送	A方式2月7・8日（火・水）
	映画/美術/デザイン	A方式2月14・15日（火・水）
	文芸	A方式2月14日（火）
	写真/映画/美術/音楽（作曲・理論、声楽、ピアノ、情報音楽コースのみ）/文芸/演劇/放送/デザイン	N方式第1期2月1日（水）
	写真/映画/美術/音楽/文芸/演劇/放送/デザイン	N方式第2期3月4日（土）
国際関係	国際総合政策/国際教養	A方式第1期2月3日（金）
		A方式第2期2月18日（土）
		A方式第3期3月11日（土）
		N方式第1期2月1日（水）
		C方式第1期
		C方式第2期
危機管理	危機管理	A方式2月4日（土）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
スポーツ科	競技スポーツ	A方式2月4日（土）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
理工	土木工/交通システム工/建築/海洋建築工/まちづくり工/機械工/精密機械工/航空宇宙工/電気工/電子工/応用情報工/物質応用化/物理/数	A方式2月11日（土・祝）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
		C方式第2期
生産工	機械工/電気電子工/土木工/建築工/応用分子化/マネジメント工/数理情報工/環境安全工/創生デザイン	A方式第1期2月2日（木）
		A方式第2期2月9日（木）
		N方式第1期2月1日（水）
		C方式
		CA方式2月24日（金）
工	土木工/建築/機械工/電気電子工/生命応用化/情報工	A方式2月3・4日（金・土）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式
		CA方式2月15日（水）
医	医	N方式第1期一次2月1日（水）
		N方式第1期二次2月11日（土・祝）
		N方式第2期一次3月4日（土）
		N方式第2期二次3月17日（金）
歯	歯	A方式2月3日（金）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
		C方式第2期
松戸歯	歯	A方式第1期2月4日（土）
		A方式第2期2月26日（土）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
		C方式第2期
生物資源科	バイオサイエンス*/動物*/海洋生物*/森林*/環境*/アグリサイエンス*/食品開発*/食品ビジネス/国際共生*/獣医保健看護*/獣医	A方式第1期2月2日（木）
		A方式第2期2月20日（月）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
薬	薬	A方式2月5日（日）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式

＊2023年4月より、開設予定。

短期大学部

校舎	学科	試験方式/試験日
三島	ビジネス教養/食物栄養	A方式第1期2月3日（金）
		A方式第2期3月16日（木）
		N方式第1期2月1日（水）
		N方式第2期3月4日（土）
		C方式第1期
		C方式第2期
		C方式第3期
船橋	建築・生活デザイン/ものづくり・サイエンス総合	A方式2月26日（火）
		N方式第1期2月1日（水）
		C方式

ワールド・カフェを開催

グループワークで価値観を共有

令和4年度の日本大学ワールド・カフェ（N-MIX）が6月5日、オンラインで開催（午前と午後の2部制で実施）され、約1万5000人の新入生が参加した。

平成29年度から初年次教育としてワールド・カフェを設け、全新入生を対象に学部間交流授業を実施してきた。

今年度から新たに開講した全学共通教育科目「自主創造の基礎」では、コミュニケーションとイノベーションというターゲットを掲げ、ワールド・カフェは、その授業の一つである。ワールド・カフェでは、①学部を超えた交流を通して、本学のスケールメリットを改めて認識することができる②複数の学部や学系が共存するグループで、多様な考えを認めながら協働ワークを行うことができる③協働ワークの成果をまとめ伝えることができる――の三つを到達目標とし、これらの能力を身に付けることが狙い。

グループワークで学生たちは、Google Jamboard（電子ホワイトボードツール）を使用し、活発に意見を交換。「日本大学への希望やもっとこれができるといいなと思う点」をグループごとに一つ決め、72に分かれたクラス内で共有した。

今年度は学生のワーク時間を増やすことを重視した。

命を守る連携の第一歩

児童福祉理解のハンドブック

危機管理学部の鈴木秀洋准教授が委員長として、「警察官・警察職員のための『児童福祉がわかる』ハンドブック」を作成した＝写真。

児童虐待分野では、命を守るために関係機関の「連携」が必要だと説かれるが、対立も珍しくはない。その理由は警察、国、都道府県児童相談所、市区町村等それぞれの組織理念や根拠規範が異なるからだ。そこで鈴木准教授が委員長を務める検討委員会は、警察と児童相談所等との間の相互理解を進め、連携を具体的に推進するために検討を重ねた。

まず、警察庁・全都道府県警察本部を通して、現場から児童虐待対応に関する質問事項を収集（1000以上の項目）。この結果をもとにヒアリングや議論を重ね、Q&A形式で掲載する45項目を絞り込み、さらに基礎知識編と用語集を加え、広く児童福祉に関する情報を取りまとめた。現在警察だけでなく児童相談所からも問い合わせがあるという。

鈴木准教授は「第一線の警察現場に役立つと思う。警察研修テキストとして広く使われてほしい。今後さらに現場の声を聞いて改訂版を出して現場の連携を助けたい」と話す。ハンドブックは機密性が高いため全編は非公開だが、概要版が一般公開されている。